

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち  
教育の小径

No.131

2019 September

9月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



## 今月のことば

ぜぜひひ  
是々非々

よいことはよい、悪いことは悪いと、道理にかなう公平で正しい判断をすることをいいます。「是を是とし、非を非とす」とも読みます。

## 将来に生きる防災教育

- 学校は子どもたちにとって安全で安心できる場所でなければなりません。防災教育は子どもの命を守る教育です。
- 子どもたちは将来、どこで生活するようになるかわかりません。自らの命をいつでも、どこでも守ることのできる、将来を見据えた防災教育が求められます。

今月の  
記念日くしの日  
(9月4日)

1978年(昭和53年)に美容関係者がくしを大切に扱い、美容に携わっている人々に対する認識を高めてもらうために制定しました。「く(9)し(4)」の語呂合わせです。

## 子どもの命を守る教育

学校では、子どもたちが楽しく安全に学校生活を送れるよう、さまざまな課題に取り組んでいます。その内容は、日常生活で起こる火災や事件や事故の防止、誘拐や傷害など犯罪被害に対する防止、交通場面における危険の回避など多岐にわたっています。

特に災害の発生時に望ましい行動がとれるように、また、危険を察知し予防するためにさまざまな対策が取られています。そのひとつに想定される災害から自らの身を守るための避難訓練があります。

近年では、地震や風水害、火山の噴火など自然災害が全国で多発していることもあって、自然災害への関心が高まり、学校や地域では防災教育の取り組みが盛んになってきました。

そこでは、子どもたちが現在住んでいる地域で、発生が想定される自然災害に対して身を守るための教育や訓練が中心になっています。例えば南海トラフ地震の発生が想定されている地域の学校では、地震や津波から命を守るため、物心両面から備えることの大切さが教えられています。

これからも、「いま」目の前にしている子どもたちの命を守るために、地

域の実態や課題に密着した防災教育の一層の充実が求められます。

## 将来に生きる防災教育とは

かつて、東日本大震災で津波によって甚大な被害を受けた沿岸の地域から、数キロメートルほど内陸に入った、高台にある学校に伺ったときのことで、次のような話を聞きました。

「本校までは津波が来ませんから、防災教育は特に行っていません。学区には幹線道路があり、坂道が多いため、自転車の乗り方など交通安全教育が重要な課題になっています。」

「なるほど」と思いつつ、子どもたちは夏になると、海辺で遊ぶことはないのだろうか。将来海岸の近くに移り住むことはないのだろうか、子どもたちの将来のことが気になりました。

私たちはいつ、どこで、どのような災害に遭遇するかわかりません。旅行や登山に出かけることもあります。移動先で自然災害に遭遇することは十分に想定されます。将来、いまとは自然環境のまったく違った新天地で生活を営むようになるかもしれません。そのような場面でも身を守るために必要となる知識や実践力をしっかり身につけることは学校教育の重要な役割です。

その際重視したい視点は、身近な地

域から広くわが国の国土全体に、場合によっては世界にも目を向け、さまざまな自然災害について基礎的な知識や技能を習得させることです。

例えば、自然災害の種類、歴史、被害状況、発生のメカニズムのほか、国土の地形や地質や気候の特色、行政機関や住民組織などの防災対策の実際、家屋の安全対策やけがなどに対する応急処置の仕方などです。これらは防災基礎と言われている内容です。社会科や理科、家庭科、体育科(保健領域)などで取り上げられます。道徳科や特別活動などの時間には生命尊重や思いやりの心などが養われます。

学校での避難訓練は教師の指導のもとに一斉に行動します。しかし、実際の多くの場面では、自ら状況を捉え、自ら考え判断して自ら行動し、自ら身を守ることが求められます。また、将来的には、災害発生時に支援者となることも求められます。学校で避難訓練を行った体験は、災害の発生時において自分も含め、周囲の災害弱者と言われる人たちの命を守る行動をとる際の基盤になります。

将来に生きる防災教育は特別な時間に特別な教育として行うものではありません。各学校の教育課程に位置づけ、関連する教科等で日常的に指導を積み重ねていくことが大切です。

# こんなとき どうする!

## 災害に遭遇して学校に行けない

朝、「自宅近くの通学路で土砂崩れが起こったので通学ができない」との知らせが学校に入りました。こうした事態に学校としてどう対処したらよいのでしょうか。

知らせがあったその場で、土砂崩れの現場からすぐに離れ、自宅で待機するように指示します。あるいは避難場所に移動するよう助言します。土砂崩れは大雨や地震などによって広域で起こることがあります。電話のあった家の周辺の子どもだけでなく、土砂崩れのあった道路を通ってくる子どもにも自宅待機するよう連絡します。

町村合併で行政区域が大きくなり、町・村役場や市役所付近の気象状況と大きく異なる地域もあります。学校の統合によって学区が広くなり、学校ですべての集落の状況を把握できないこともあります。自然災害が起きたときや起きそうときには、集落ごとに適切な判断と行動をとることが求められます。日ごろから共同体意識を養っておきたいものです。

災害発生時に適切に行動できるようにするためには、日ごろの防災教育が欠かせません。地域における災害の歴史を知ること、自然災害の発生を予知して早めに避難すること、災害時に必要なものをあらかじめ準備しておくことなど指導しておきます。

最近では、気象情報を踏まえて、休校などの措置を知らせる仕組みが確立してきました。災害が発生したときの行動の仕方について、災害ごとにマニュアルを作成し、保護者や子どもたちに徹底しておきましょう。

# 教育の動向

## 防災に対する意識調査

日本世論調査会はこの2月に、国民が大きな地震や集中豪雨などの自然災害に遭遇する恐れをどのように感じているかを面接調査しました。

それによると「大いに感じている」と「ある程度感じている」を合わせた割合が76.5%に上り、2年前より15ポイントも多くなったといえます。これは国民の自然災害に対する危機意識が高まっていることを示しています。背景には、東日本をはじめ熊本、大阪、北海道などでの地震や西日本豪雨などによるものと考えられます。

県や市などでは、地域で発生する災

害を想定した地図「ハザードマップ」を作成して、地域住民に注意喚起を促しています。この地図を確認したことがある人は61%でした。自然災害に遭遇したとき、どのように行動するかを家族などで話し合っている人は56%でした。また、避難訓練や救命講習など地域の防災活動に参加している人は35%だったそうです。これらの数字は決して高くありません。

本調査は一般の国民を対象にしたものですが、子どもたちはどうでしょうか。学校においても防災意識を高め、どのような備えが求められるのかを子ども一人一人に考えさせる必要があります。また、保護者会やPTA活動の場で話題にするなど、保護者への啓発活動を継続して実施したいものです。



## 「思考力・判断力・表現力」の

# 指導と評価

その11

## 評価方法① 評価観の転換を

知識や技能の習得状況を捉える評価観で、思考力、判断力、表現力の育ち具合を評価することができるでしょうか。知識や技能は量的で目に見えやすい学力であり、短時間に習得させることができる学力です。知識や技能と性格を異にする思考力、判断力、表現力の評価においては、これまでの伝統的な評価観を転換させる必要があるのではないかと考えます。

まず、思考力、判断力、表現力は質的な性格をもっていますから、基本的には、「○か×か」といった正誤の基準による評価は馴染みません。ここに「評価規準」（クライテリア）の用語が使われている理由があります。

また、1単位時間や数時間といった短時間の学習ではぐくまれるものでは

ありません。そのため育ったとか育っていないと拙速に判断することは禁物です。学期や年間といった長期的な視野に立って評価（評定）します。

さらに、思考力、判断力、表現力の育ち具合は子ども一人一人の内面に形成され、外部からは目に見えにくいものです。そのため、可視（聴）化させる必要があります。具体的には思考、判断したことを書く、話すといった表現活動を組み入れることです。言語や音声、映像、身体などで表現させた内容から思考力、判断力、表現力の育ちの状況を捉えることができます。

思考力、判断力、表現力は学習や指導の成果や結果として表れるだけでなく、学習の過程においても表出されます。思考力、判断力、表現力の育ちの状況を評価するためには、従来の評価観を転換することが求められます。

## INFORMATION

最新刊

授業力向上の処方箋  
『ものの見方  
考え方』とは何か



A5判  
96ページ

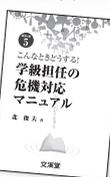
## 北俊夫先生の著書

だれでもできる  
社会科  
学習問題づくりの  
マネジメント



A5判 104ページ

こんなときどうする!  
学級担任の  
危機対応  
マニュアル



A5判 96ページ

なぜ子どもに  
社会科を  
学ばせるのか  
—考え方と実践のヒント—



A5判 104ページ

言語活動は  
授業をどう変えるか  
—考え方と実践のヒント—



A5判 112ページ

## 編集後記

2020年度から使用する教科書が明らかになってきました。これから各学校で教育課程の編成や年間指導計画の作成が行われるでしょう。新学習指導要領の十分な理解と教材の充実が急がれます。(K記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2019年9月1日